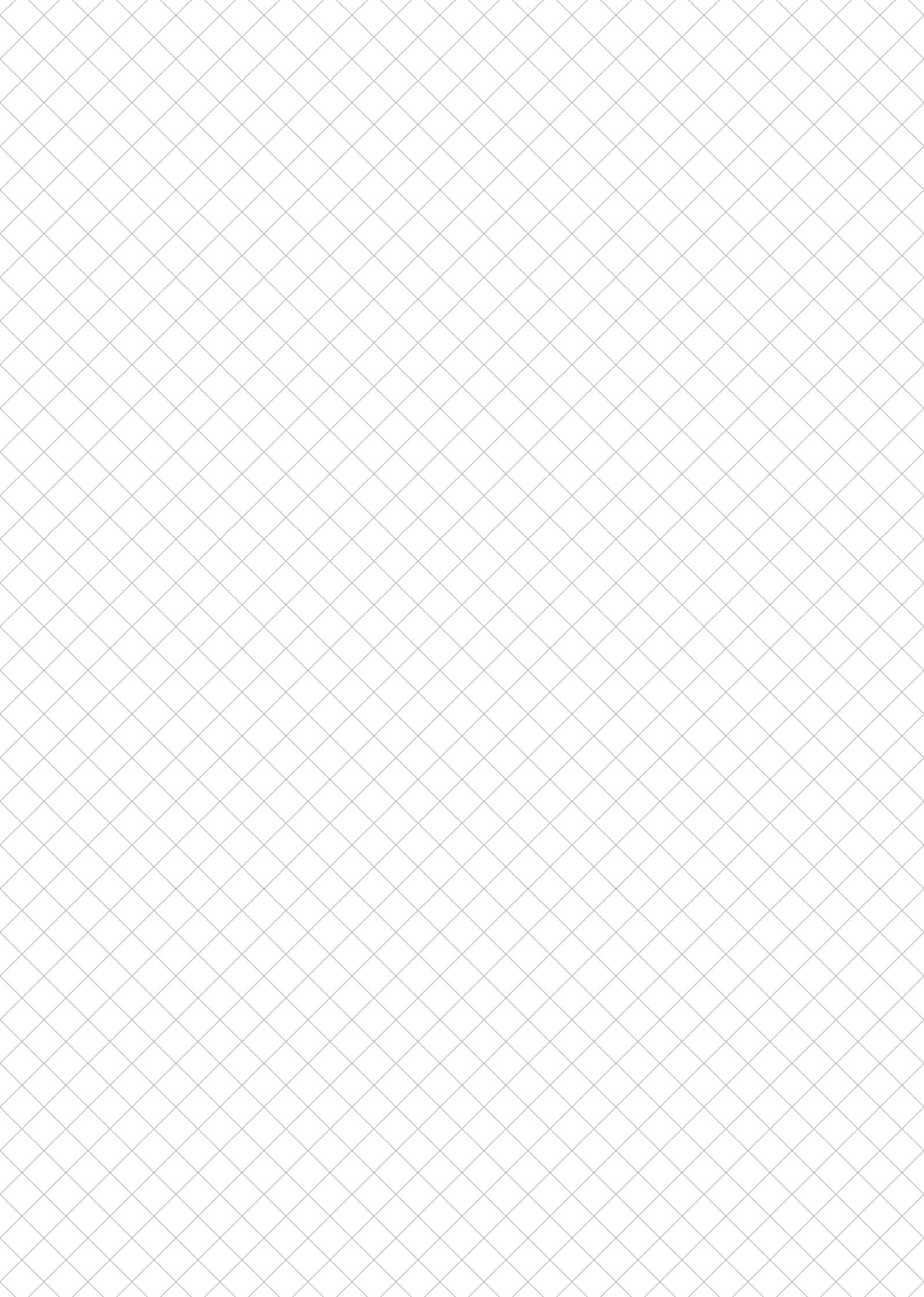


Co-Creation+

2022.4-2023.3





はじめに

これからの社会において、芸術は何の役に立てるのか？ 未来社会に必要とされる芸術大学とは？ 振り返れば、このような問いかけから成安造形大学 未来社会デザイン共創機構は生み出されました。私たちは、芸術研究と社会を結ぶことを目的とした特色ある研究機関です。本機構には「地域連携推進センター」、「附属近江学研究所」そして「キャンパスが美術館」が含まれていますが、この事例集では直轄するプロジェクト等の研究・連携活動に焦点を当て、2022年度の活動をコンパクトに紹介します。

今日、芸術は世界共通の社会制度であり、平和的なインフラとして定着しています。芸術はそれぞれの歴史や文化の再確認を促すとともに、新しい美意識や価値観をカタチにして具体的かつ鮮やかに提示することができます。また、そこでは個性や多様性が最大限に尊重されます。多くの良き作品は、個人の感覚の自由と解放性から生まれるからです。このように芸術は素晴らしい機能を持つ今日的で重要な分野なのです。

しかし、社会は芸術という分野を理解し、十分使いこなしているでしょうか？ その点において本機構の担う役割は小さくありません。芸術分野の専門性を活かして、誠意と熱意を持って未来社会の構想（デザイン）に参画すること。能動的に川上から課題を共有し、新しい価値を創造すること。つまり、より良き社会の実現に向けて主体的に考え、行動し、提案するクリエイター像を顕在化することが私たちの役割なのです。そして、このことが本学が目指す実践的な芸術教育の要であり、その意味において共創プロジェクトや地域実践・プロジェクト科目／授業が極めて重要であることは言うまでもありません。

本機構は2021年4月に設立され、約3年が経過しました。社会からの期待も日増しに大きくなっており、確かな手応えを実感しています。またそれに伴ってプロジェクトのクオリティも高まっています。独自のユニークな学生支援事業「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）」や「seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）」も好評です。しかし、いまだ着手できていないことも多々あります。今日的な状況を踏まえて、皆様のご協力を得ながら研究領域を深化・拡張させ、さらに成長していきたいと考えています。今後ともご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 機構長
岡田修二

芸術研究と社会を結ぶ、研究機関 「未来社会デザイン共創機構」

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構は、学園建学の精神「成安・誠と熱・実践教育」および大学基本理念(教育理念)「芸術による社会への貢献」を、今日的条件下で、より力強く実践・展開することを目的として、2021年4月に設立されました。社会との共創により、芸術研究を深化・拡張させ、新たな価値の創造とより良い未来社会の実現を目指します。

設置理念

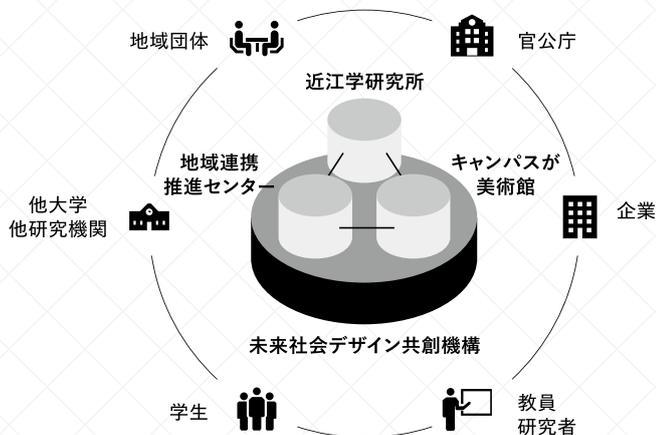
芸術研究と社会を結ぶ、産官学民連携の場を作ります。
主体的な姿勢で社会と共に創造的サイクルを生み出します。
芸術分野がどのように社会へ貢献できるかを、誠意と熱意を持って議論します。

芸術分野と様々な社会テーマの交点を捉え、特色ある今日的芸術研究を推進します。
横断的視点を重視し、新領域や融合領域の創出を推進します。
社会課題の共有により組織的連携を推進し、基礎研究段階からの共創を目指します。
相談案件や研究プロジェクトの舵取りを行い、研究・連携支援の一元的窓口となります。
研究の成果を積極的に社会へ発信することにより、新たな共創を構築します。

未来社会のあり方を考え、人間環境の改善に資する様々な研究の創出を目指します。
こころの豊かさや安らぎの獲得に資する様々な研究の創出を目指します。
優れた芸術の価値を顕在化させ、未来社会のデザインに資する様々な研究の創出を目指します。

学生や教員の研究・制作活動を実践・支援することで学術研究と社会を結び、
社会と共創関係を構築するハブとして機能します。

- POINT 1** 各附属機関の活動および大学全体の研究活動を支える土台。
- POINT 2** 研究活動の支援を通して学生および教員・研究者と社会を結ぶ。
- POINT 3** 学内外からの研究活動に関する相談窓口としての機能。



各附属機関に関する情報はこちらから

キャンパスが美術館 ウェブサイト
<https://artcenter.seian.ac.jp>



近江学研究所 ウェブサイト
<https://omigaku.org>



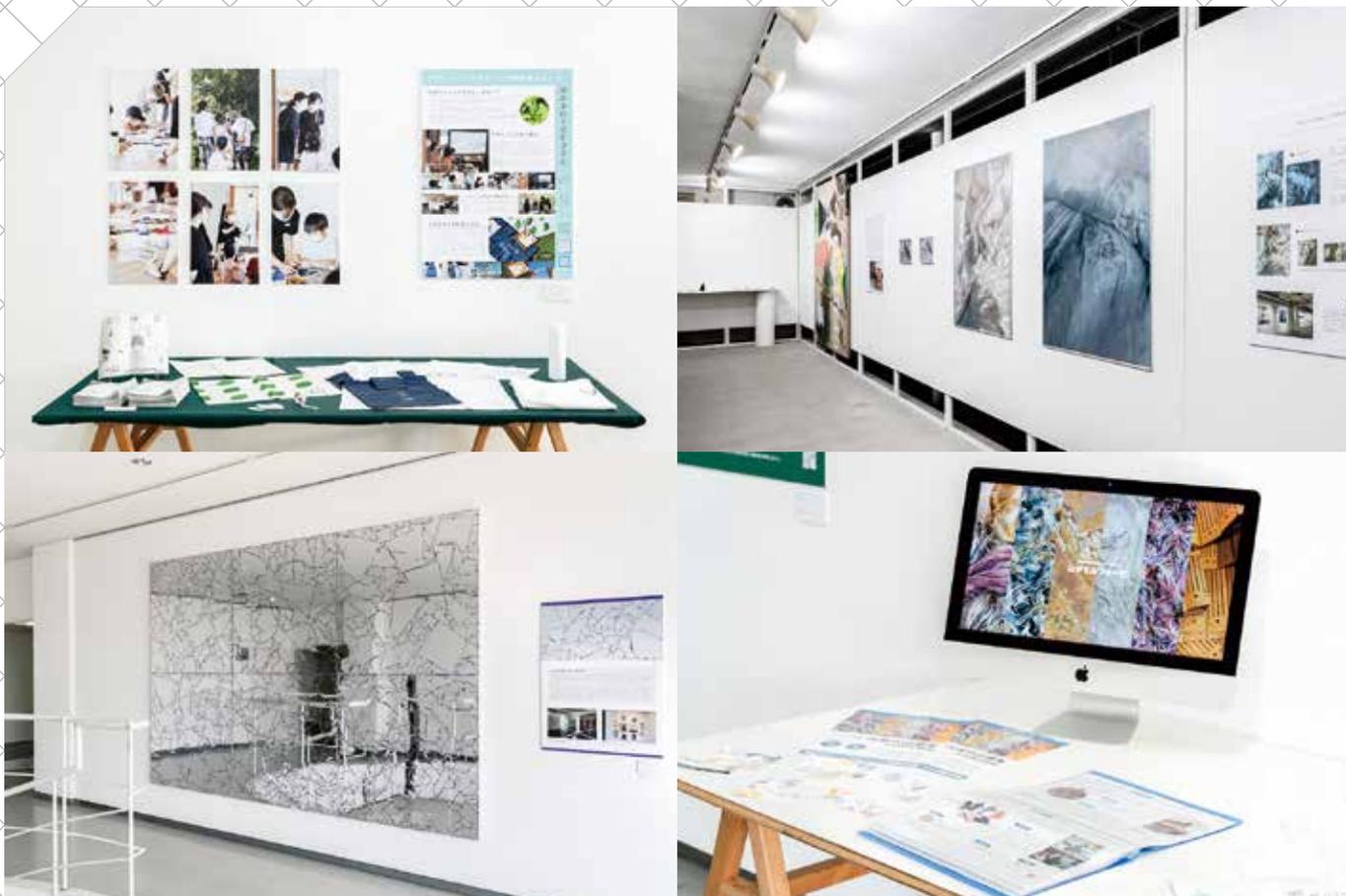
未来社会デザイン共創機構では、芸術分野における真摯な教育と研究を通して
広く社会に貢献することを目指し、産官学および地域との連携事業や
研究助成事業に積極的に取り組んでいます。
本冊子では、2022年度に実施した研究助成事業や産官学および
地域との連携事業等の活動事例を、下記の分類に沿ってご紹介します。

[事業分類]

- 研究助成事業
- 共創プロジェクト(受託研究・共同研究・受託事業)
- 地域実践・プロジェクト科目／授業

● SEIANドリームプロジェクト(学生特別研究助成金)	4
● seianチャレンジ(学生が取り組む地域活動支援制度)	8
● ムダモルフォーゼプロジェクト	10
● JR湖西線アートプロジェクト	12
● 「しがCO ₂ ネットゼロムーブメント」プロジェクト2022	14
● しがアートフェスタinアグリパーク竜王	15
● 微生物を題材にしたカードゲーム制作	16
● びわ湖毎日マラソン記念モニュメント制作	17
● 共創プロジェクト(受託研究・共同研究・受託事業)紹介	18
● 地域実践・プロジェクト科目／授業紹介	20
事業分類概要	22
2022年度事業一覧	23

*連携先の名称、学生の学年は2022年度当時の情報です。



成果発表展の様子 | 撮影:守屋友樹

SEIANドリームプロジェクト | 学生特別研究助成金

「SEIANドリームプロジェクト(学生特別研究助成金)」は、研究活動の活性化を目指し実施しています。本学の学生・研究生から、既存の枠にとらわれない独創性豊かな研究・制作テーマを募集しています。選ばれたテーマに対しては、最大総額100万円の助成を提供し、さらに専門的なアドバイスや外部団体・スポンサー企業とのマッチングをサポートしています。

2022年度は、個人およびグループから総計13件の申請を受け付け、審査の結果、7件のテーマを採択・支援しました。

今回の採択テーマの傾向として、大きく「企業

や地域団体と協働するプロジェクト型」と「卒業制作等を目的とした作品制作型」の2つのカテゴリーに分かれました。これらの活動は学生単独での取り組みだけでなく、学生間や教職員、さらには学外の専門家との連携が必須となっています。助成金に関しては、総額100万円を上限としているため、一部、希望額から減額して採択したテーマもありました。しかしながら、本機構は金銭的なサポートだけではなく、外部との連携強化や各事業に特化したサポートを積極的に提供。この取り組みのおかげで、採択した全ての活動が顕著な成果を上げることができました。

担当:
未来社会デザイン共創機構

期間:
2022年4月-2023年4月



募集チラシ | デザイン:塩谷啓悟

1. 森林保全×NFTアートプロジェクト《ハトハ》

相川佳奈 | 情報デザイン領域4年生



《ハトハ》は、日本の森林保全の活性化を目的としたアートプロジェクトです。現代の林業の採算性の低下や林業の衰退が、健全な森林の維持を困難にしています。そこで《ハトハ》は、NFTアートを活用することによる林業事業者支援の可能性を探るため、滋賀県産のヒノキを使ってオリジナルのトラベラーズノートカバーを製作しました。このカバーに刻印されたQRコードを読み込むと、支援先の林業事業者の情報やその最新の活動状況を知ることができます。これにより、事業者はNFTアートの収益を得るだけでなく、自身の活動の支援者となることができ、経営のモチベーション向上につながると考えています。(プロジェクトの詳細は下記QRコードよりウェブサイトをご覧ください)



ウェブサイト

2. デザイン、プロダクトで行動変容を起こす／おおきにトビケラさんプロジェクト

西村清美 | 総合領域4年生、高木琉音 | 総合領域4年生、中西若菜 | 総合領域3年生



「トビケラ」は、京都府宇治市の宇治川流域に生息する生物で、大量発生による不快被害の声が多く上がりますが、実は珪藻類やプランクトンを食べて川を綺麗にしてくれるありがたい存在です。このプロジェクトは、トビケラに対する印象をデザインやプロダクトの力でプラスに変え、共生する意識をもたらすことを目的としています。トビケラへの理解を楽しく深めるための子ども向けワークショップや漫画の制作、環境に配慮したグッズ制作を行いました。また、宇治環境フェスタや淡海の川づくりフォーラムにも参加し、参加者から最も応援カードを獲得したチームに贈られる「応援の花咲いたで賞」を受賞するなど、多くの方々からの支持を受けています。(プロジェクトの詳細は下記QRコードよりウェブサイトをご覧ください)



ウェブサイト

スケジュール

2022年

4月 情報公開・募集開始

5月 募集締め切り

6月 審査・結果発表

7月 支援期間開始

8月

9月

10月

11月

12月

2023年

1月

2月 支援期間終了

3月 報告書・パネル提出

4月 成果発表展開催

3. 不在の中の存在—作為の痕跡

北村侑紀佳 | 美術領域4年生



「不在の中の存在」というテーマを探究したこのプロジェクトでは、特定の主体による痕跡を匿名化・複数化させる作品制作に取り組みました。具体的には、“ベッドに残るシーツの皺”に着目し、撮影した寝具の写真をもとにAI技術や加工・編集を用いて痕跡を故意に作り出しました。そうすることで、本来はある特定の個人によって形成されるはずの痕跡を匿名化・複数化させ、鑑賞者一人一人が想像する“誰か”を肯定します。この作品を通じて、価値観の不一致を受け入れる新しい視点を社会に示すことを目指しており、学内だけでなく、大阪や東京でも展覧会を開催しました。

4. 私と貴方をつなぐ作品・空間の共有

ナカスジミナミ | 空間デザイン領域 田中秀彦研究室 研究生



卒業制作で自らが作品の一部となり鑑賞者との関わりを直接経験したことから、作品と鑑賞者、そして作家との境目が曖昧になる瞬間の魅力を追求し、新しい作品制作に挑戦しています。過去の病気が残した紫色のアザにより、生きている実感が湧く特別な色として制作に紫を用いています。今回新たに、割れた鏡を紫色の樹脂で修復し、壁を埋める大きな作品を制作しました。鑑賞者が鏡を覗き込むと身体に無数の紫の歪なつなぎ目が入り、作家自身が経験した心と身体がバラバラになる感覚を擬似的に体験することができます。

5. 店舗、企業から排出されるゴミ問題に着目したアップサイクルデザイン／ムダモルフォーゼプロジェクト運営委員会

代表：中村夏波 | 情報デザイン領域4年生



アパレル業界の大量生産と大量消費に伴う売れ残り商品の廃棄問題に着目し、不用品に新たな価値を生み出す「アップサイクル」を推進するプロジェクトです。企業から提供される廃棄予定の素材や端材を使い、新しいアート作品に再生させるため、在学生・卒業生に作品出品を呼びかけました。制作した作品は、9月にイズミヤ堅田店で展示し、10月には阪急うめだ本店「うめだスーク」で展示および販売を行いました。このプロジェクトは16名の学生チームによって運営し、店舗販売、店舗デザイン、出展コーディネート、経理事務、広報記録に分かれ、各自の得意分野を活かして活動しました。

6.

山元春挙の想いと継承

野一色優美 | 美術領域 高田学研究室 研究生



2022年に生誕150年を迎える滋賀県大津市膳所出身の日本画家、山元春挙を主題とする研究に取り組み、総本山三井寺(長等山園城寺)にて日本画コースの研究生・学生4名によるグループ展を開催しました。春挙の別荘である蘆花浅水荘の見学や、大津市歴史博物館での学芸員によるコレクション作品の鑑賞会を通じて、研究を進めました。春挙が好んで使用した群青の「青」に着目し、その意味や背景を考察しました。脈々と受け継がれてきた山元春挙の画業に触れ、新しい世代の日本画家としてのビジョンを形成するため、自らの解釈をもとに屏風作品の制作と展示を行いました。

7.

不用品(ゴミ)を使った新しい素材の研究

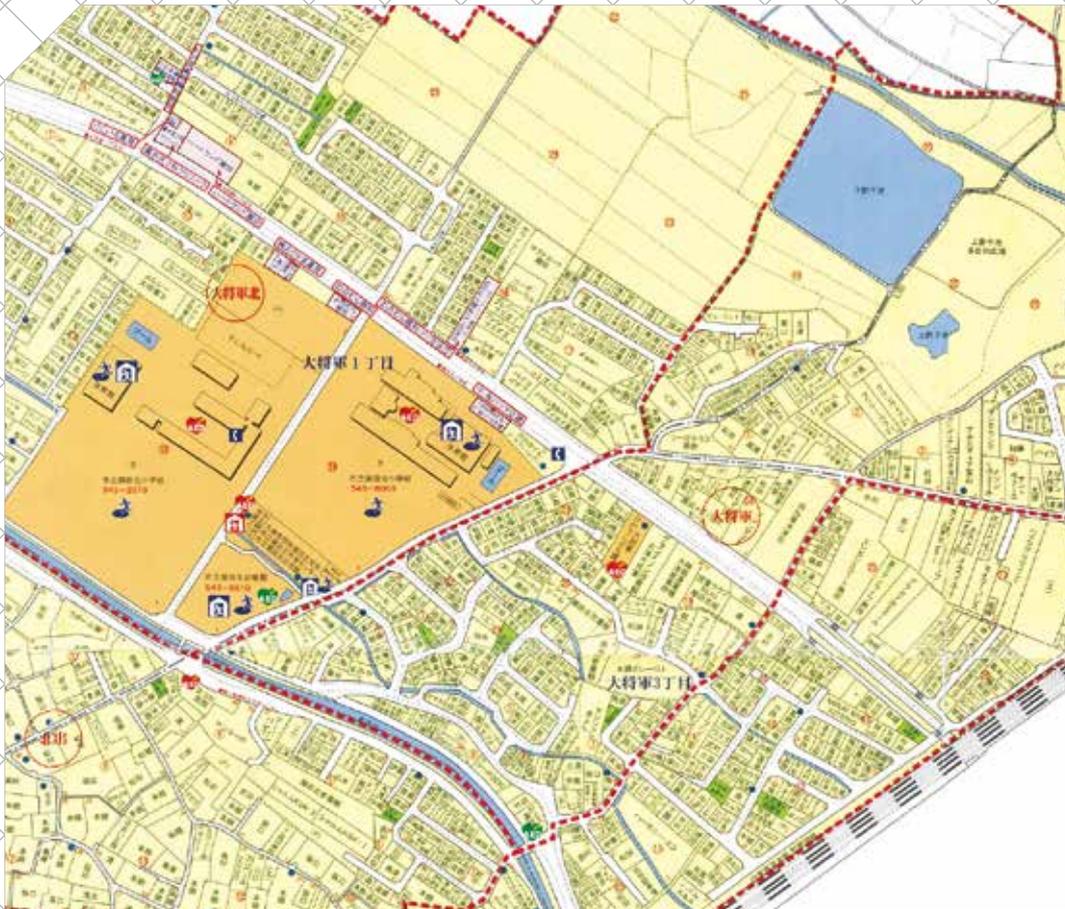
三上萌香 | 総合領域4年生



日常生活から生まれるゴミを「まだ見ぬ可能性を秘めた原石」ととらえ、私たちの生活を再び彩る何かへと生まれ変わらせることを目指す素材研究プロジェクトです。ゴミ処理の現状を理解するために、ゴミ処理場に併設された環境学習施設や、徹底的な分別体験ができる宿泊施設を訪問しました。この調査を通して、私たちの努力だけでは処理しきれないゴミの存在に気がつきました。そこで、捨てられても自然の力で分解される、または再利用資源として再生される未来を目指し、コスチューム作品の制作に挑戦しました。生ゴミとして扱われる野菜の皮をペースト状にして固めたパーツや、裁断して変形させたペットボトルなどを用い、2着のドレスを制作しました。

成果発表展の様子 | 撮影:守屋友樹





テキテキ
たんけんぞく

ぼくら、
テキテキたんけんぞく
どうしたって
たんけんしちゃう
いきものです。



《テキテキたんけんぞく》ワークシート

seianチャレンジ | 学生が取り組む地域活動支援制度

本学の基本理念「芸術による社会への貢献」を実現するため、学生個人または団体の自主的・主体的な地域活動を支援する「seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）」を実施しています。申請された地域活動1件ごとに最大5万円の助成支援や専門的なアドバイスなどを提供しています。制度導入の2022年度には、3件の活動を採択しました。

seianチャレンジは、「セイアン近江楽座」を継承して始まりました。セイアン近江楽座は2015年度から2019年度にかけて実施された文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」を基盤に、

学生が地域と協働するプロジェクトを支援する制度です。しかし、SEIANドリームプロジェクトのスタートに伴い、制度の見直しが行われ、学生の初めての地域活動の一步を助ける、低額な助成制度としてseianチャレンジが再構築されました。今後、授業を通じて生まれる地域活動関連の作品やプロジェクトも、この制度でサポートしていく方針です。

担当：
未来社会デザイン共創機構

期間：
2022年7月-2023年3月

スケジュール

2022年	
4月	
5月	
6月	
7月	情報公開・受付開始 (随時受付)
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	受付終了
2023年	
1月	
2月	支援期間終了
3月	報告書提出

1. らくがんさんの落雁／らくがんさんの落雁制作委員会
YU WANNING | イラストレーション領域2年生

山本エリ | イラストレーション領域1年生

武田愛美 | イラストレーション領域1年生

本多優衣 | イラストレーション領域4年生



学生有志によるアートプロジェクト「堅田*はまさんぼ」の2022年度企画として、プロジェクトマスコットキャラクター「らくがんさん」を意匠にした堅田の名菓「落雁」を制作しました。制作にあたり、堅田浜通り商店街で和菓子屋「金時堂」を営む山本伸一氏に、落雁の作り方の指導や木型制作に関するアドバイスをいただきました。制作した落雁は、まちなみを楽しんでもらうこと、お菓子を通じて堅田地域の文化的魅力を感じてもらおうことを目指し、同プロジェクトのウォークラリー企画の景品として参加者にプレゼントしました。

3. 自分の地図を広げる探検マップをつくろう
平良珠朱 | 地域実践領域3年生



瀬田北小学校の学区にある学童「TekiTeki学童」にて、「テキテキたんけんぞく」と題したまち探検ワークショップを企画・開催しました。このワークショップでは、子どもたちが歩き慣れたまちを“探検者”として歩き、普段見過ごされていたまちの魅力を探し出し、地域への愛着心を育むことを目指しています。また、まちを歩き、遊び、調査する中で地域住民との接点生まれ、顔見知りの大人が増えることは防犯対策にもつながります。子どもたちがまちで遊び、大人たちが見守り、時には助け合える地域コミュニティづくりを目指して活動しました。

2. 地球温暖化防止を目的としたマイボトルのデザインコンペ

大町彩依 | 総合領域4年生

高津愛加 | 情報デザイン領域3年生



深刻な環境問題であるCO₂の排出量削減のため、ペットボトルの使用量を下げることが目的としたマイボトルのデザインコンペを企画・開催。「ずっと使いたいと思うマイボトルのデザイン」というテーマのもと13件の応募が集まりました。審査を経て選ばれたデザインは、実際にボトルになり、滋賀日産自動車株式会社堅田店にて配布されました。このプロジェクトはゴミの削減を呼びかけるだけの活動ではなく、デザインの力により「ずっと使いたい」と思ってもらえる価値のあるマイボトルを生み出すことでペットボトルの使用削減につなげていこうというねらいが込められています。



平良珠朱 | 地域実践領域3年生

実際にこの活動をやってみて、子どもたちが地域の中にお気に入りの場所を持っていたことに驚きました。私が考えていた以上に、子どもたちは自分の住むまちに注目していました。これを伝えるために、活動の最後に学童内で子どもたちが撮った写真を展示し、発信する機会を作りました。活動に参加した子どもだけでなく、他の子どもたちも巻き込んで地域を見つめ直すきっかけを作ることができたと思います。



阪急うめだ本店「うめだスーク」展示・販売の様子

ムダモルフォーゼプロジェクト

近年のアパレル業界は大量生産と大量消費により、売れ残り商品の廃棄という課題に直面しています。この問題に対処するため、不用品に新しい価値を付加する「アップサイクル」を推進する「ムダモルフォーゼプロジェクト」が立ち上がりました。エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社(阪急百貨店やイズミヤSCを運営)との協力のもと、廃棄予定の材料を新しいアート作品へと転換しています。在学生や卒業生を中心に、ムダモルフォーゼのコンセプトに賛同する21名の作家が作品を提供しました。型落ちや返品商品だけでなく、工房で出た端切れや梱包材も再利用し

ています。阪急百貨店スタッフからの実務的なアドバイスを取り入れ、裁縫の品質や価格などを調整しました。作品は、イズミヤ堅田店と阪急うめだ本店「うめだスーク」で展示・販売されました。

2021年度より、学生、教職員、企業関係者との協力を重ね、社会的影響を持つプロジェクトを立ち上げることができました。アップサイクルは持続可能なモデルとして注目され、本プロジェクトもその価値を証明しています。学生や卒業生に対する実践的なサポートを強化するために、企業との更なる協力と幅広いアプローチが必要です。

担当：
大野知英 非常勤講師/
未来社会デザイン共創機構

期間：
2022年4月-2023年3月

連携先：
エイチ・ツー・オー リテイリング
株式会社/
株式会社阪急阪神百貨店

助成：
成安造形大学2022年度
「SEIANドリームプロジェクト」/
環びわ湖大学・地域コンソーシアム
「大学地域連携課題解決支援事業
2022」

参加領域：
総合/イラストレーション/美術/
情報デザイン/空間デザイン/
地域実践

参加人数：
37名



廃棄素材



廃棄素材



作品制作の様子



作品制作の様子



作品制作中間チェックの様子



展示・販売会DM



佐藤裕紀乃 | 総合領域3年生

このプロジェクトは、「未来のものづくり業界を担う芸大生が、廃棄素材から作品を作ることで問題提起できるのではないか」という考えのもと発足しました。私が所属した運営チームは、作品販売に向けて、学生クリエイターが十分にクリエイティビティを發揮できるよう、外部の担当者と綿密に打ち合わせを重ねながらサポートしました。普段の活動の中でも廃棄物を出さないよう心がけるようになり、SDGsに向き合う大切さを実感しました。



二反田菜都美 | 空間デザイン領域3年生

作品を制作するにあたり、販売を目的とした企画であったため、品質面を重視しながら素材と真剣に向き合い、何度も試行錯誤を重ねました。販売を通して、お客様と直接コミュニケーションを取る中で、生の反応や空気感を感じ取ることができ、嬉しさとともに作品に対する自信が湧きました。また、新たな素材に向き合ったことで、素材の可能性や価値観の変化につながり、制作の幅が一層広がりました。

スケジュール

2022年

4月	プロジェクトチーム結成
5月	クリエイター募集、素材リサーチ
6月	制作開始
7月	
8月	
9月	イズミヤ堅田店にてプレ展示会
10月	阪急うめだ本店「うめだスーク」にて展示・販売会

11月	展示・販売会の振り返り
12月	
2023年	
1月	
2月	
3月	



コアメンバー集合写真

JR湖西線アートプロジェクト

2021年度から始まったJR西日本との連携事業「JR湖西線アートプロジェクト」は、2022年度に第2弾を迎えました。今回は、総合領域3年生の演習授業と連携し、大学の最寄り駅であるおごと温泉駅を舞台にさまざまな活動が展開されました。

授業内でフィールドワークやアイデア検討を進めた結果、16名の学生が2つのチームに分かれてアートプロジェクトの企画・提案を行いました。授業終了後からは3名の学生がコアメンバーとしてプロジェクトを推進。駅名をヒントにしたのれんアートや、昔はお土産の定番だったペナントをモチーフとした大型アートを制作しました。出口付近の日除けのれんは、西口方面の上仰木の棚田を緑色で、東口方面の琵琶湖を水色で表現しています。ペナ

ント型の大型アートには、スマートフォンのカメラを通してイラストが動くAR機能が取り入れられ、学生たちの創造力が光っています。また、改札内の階段空間を飾る小型ペナントは、地域住民や駅利用者向けのワークショップで制作されました。

本プロジェクトは当初、学生有志の自発的な活動から始まりましたが、2022年度からは大学の正式な演習授業の一環として取り組まれるようになりました。学生たちは大学で学んだ技術を活かした、公共空間の活性化を実体験しました。地域住民や駅利用者とともに、共同で駅の装飾を行うことで、地域の人々や観光客の駅への愛着をより一層強めたと言えます。

担当：
宮永真実 講師
未来社会デザイン共創機構

期間：
2022年4月-2023年3月

連携先：
西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）/
湖西線利便性向上プロジェクト
推進協議会

参加領域：
総合

参加人数：
16名（うちコアメンバー3名）

参加学生（コアメンバー）：
青山萌菜美（総合領域3年生）
片山ひより（総合領域3年生）
桑原歩花（総合領域3年生）



のれんアートと巨大ペナントアート



ワークショップで集まったペナントアート



ペナントスタンプワークショップの様子



ペナントスタンプワークショップの様子

桑原歩花 | 総合領域3年生

自分たちが考案したアイデアを実現させるという貴重な経験をしました。おひろめ会で多くの人前で挨拶をしたり、駅にスプレーで足元マークを作ったり、学生だけではできない経験ができました。企業の方々の協力で、おごと温泉観光協会やおひろめ会の参加者など、学外の人々との関わりが生まれました。忙しさから大変さを感じることもありましたが、アートプロジェクトが完了したとき、このプロジェクトに参加できたことに大変満足しました。



青山萌菜美



片山ひより



桑原歩花

スケジュール

2022年

4月	おごと温泉駅フィールドワーク
5月	アイデア展開
6月	プレゼンテーション
7月	ポスター提案
8月	
9月	
10月	ペナントスタンプイラスト募集

11月	ペナントスタンプワークショップ開催
12月	
2023年	
1月	作品設置
2月	作品おひろめ会
3月	



ワークショップの様子

「しがCO₂ネットゼロムーブメント」プロジェクト2022

2021年度ロゴマークデザインに続き、2022年度は小学生とその親を対象としたワークショッププログラムの開発に取り組みました。制作したツールには、温暖化問題とCO₂削減の必要性をイラストとキャラクターで説明する紙芝居《はいしゅつちゃんときゅうしゅちゃん》、ロゴマーク型のフレームに埋め込んだ黄色のドングリ=排出を、木質ペレットの中から探し出した緑色のドングリ=吸収に置き

制作した紙芝居を読み聞かせる様子



換えてネットゼロの概念(排出と吸収のバランス)を学ぶ「ロゴマーク・ゲームキット」、子どもが自らの取り組みを記入する「チャレンジカード」、廃棄される紙を再利用した「ロゼットメダル」、「ワークショップマニュアル」が含まれています。

ネットゼロにふさわしい自然素材やリサイクル素材を使用したこれらのツールで、複雑な概念を体験しながら楽しく学べる約40分のワークショップを構成しました。

2022年11月12日・13日に開催されたイベントでの試作テストとブラッシュアップを経て完成したワークショップは、2023年1月14日にピアザ淡海で開催された「しがCO₂ネットゼロフェスタ」で実施され、多くの好評をいただきました。

担当：
大草真弓 教授
石川 亮 准教授
未来社会デザイン共創機構

期間：
2022年4月-2023年3月

連携先：
滋賀県総合企画部CO₂
ネットゼロ推進課/
公益財団法人
淡海環境保全財団
(滋賀県地球温暖化防止
活動推進センター)

参加領域：
情報デザイン/地域実践

参加人数：
3名

参加者：
井上実奈美(地域実践領域アシスタント)
佐々木良緒(地域実践領域3年生)
中村文乃(情報デザイン領域2年生)



ワークショップの様子

しがアートフェスタinアグリパーク竜王

文化芸術の発信やつながりづくりをテーマに開催された滋賀県主催の親子向けイベント「しがアートフェスタinアグリパーク竜王」において、キービジュアルデザインとワークショップの企画・運営を行いました。



イベントチラシ

イベントのチラシやウェブサイトを展開されたキービジュアルは、情報デザイン領域3年生の武田果織さんによるアイデアが採用されました。蒔いた種から花が咲き、その花が残した種が再び芽吹くという植物のサイクルから、人とのつながりや文化の継承をイメージし、植物の種によって花の形をデザインしています。

イベント当日には、地域実践領域3年生の緒方里奈さん、佐々木良緒さん、平良珠朱さんが、《やさいのヒミツをのぞこう!てのひら研究室》と題したワークショップを開催しました。野菜の観察とみためあそびをする企画です。子どもたちからは、「ピーマンは苦手だけど、形づくりが楽しかった」という感想をいただきました。このワークショップで、野菜を「知る」ことで苦手意識を克服するきっかけを提供しました。

担当：
未来社会デザイン共創機構

期間：
2022年4月-2022年10月

連携先：
滋賀県文化芸術振興課

参加領域：
情報デザイン/地域実践

参加人数：
7名



完成したカードゲーム(左上から時計回りに《レッツ! バイオフィルム》、《マイクロフレンズ》、《微生物合戦》、《ぐねぐねびせいぶつ》)

微生物を題材にしたカードゲーム制作

滋賀県立琵琶湖博物館と株式会社SCREENホールディングスと本学との産官学連携で、自然共生社会の実現を目指す社会貢献事業に取り組んでいます。異なる専門知識を持つこれらの組織の連携により、より質の高い教育的コンテンツの制作を試みています。

本学は浪本浩一先生の情報デザイン実習(ソーシャルデザイン実習)と連携し、18名の学生とともに琵琶湖博物館で琵琶湖の環境や微生物の生態に関する専門的知見を学びました。その後、小学生向けの教育的コンテン

ツとして、カードゲームやボードゲームを制作しました。仰木の里小学校の5年生を対象にしたプロトタイプの検証を通じて、《マイクロフレンズ》《微生物合戦》《レッツ! バイオフィルム》《ぐねぐねびせいぶつ》の4種類のゲームを開発しました。

これらのゲームは、今後、三者間で協力し、琵琶湖博物館の来館者を対象に体験の機会を提供するとともに、その有効性の検証や改善のための取り組みを予定しています。

担当：
浪本浩一 非常勤講師
高橋智子 特別講師
未来社会デザイン共創機構

期間：
2022年4月-2023年3月

連携先：
株式会社SCREEN
ホールディングス/
滋賀県立琵琶湖博物館

参加領域：
総合/情報デザイン

参加人数：
18名

ワークショップの様子





完成した記念モニュメント

びわ湖毎日マラソン記念モニュメント制作

滋賀県で長年開催されてきた「びわ湖毎日マラソン」の記念モニュメントの制作を、美術領域の馬場晋作先生が担当しました。びわ湖毎日マラソンは、県内で57回開催され、2021年の第76回大会をもって滋賀での開催を終えたマラソン大会です。このマラソン大会の歴史を称え、後世に伝えるために、大津市スポーツ協会と連携して、皇子山陸上競技場に記念モニュメントを設置しました。県内で開催された大会数にちなんで57枚の大型ステンレスが各大会のコースを形取り、下部には参加ランナーの数が刻まれるなど歴史を表現しています。除幕式には、大津市の佐藤健司市長をはじめ多くの来賓と、2021年の第76回大会で日本記録を樹立した鈴木健吾選手(富士通陸上競技部)がゲストとして参加しました。馬場先生は「長い歴史の中で、活躍した選手はもちろん、力を出し切れなかった選手もい

たでしょう。大会開催に尽力した裏方の方々、悔しくも参加できなかった選手、応援する地域住民など数字や歴史に残らない名もなき人たちの営みをこの重なりや隙間から想像して制作しました。この新たなモニュメントが歴史あるこの場に馴染み、重なりの一部となれば嬉しく思います。」と作品への思いを述べました。

担当：
馬場晋作 准教授
地域連携推進センター

期間：
2022年4月-2023年3月

連携先：
一般社団法人
大津市スポーツ協会/
大津市市民部スポーツ課



左：馬場晋作 准教授
右：鈴木健吾 選手

共創プロジェクト(受託研究・共同研究・受託事業) 紹介

2022年度 国民健康保険 健康増進強調月間啓発ポスター制作



2022年度国民健康保険健康増進強調月間啓発採用ポスター

担当: 未来社会デザイン共創機構 | 連携先: 滋賀県国民健康保険団体連合会
期間: 2022年5月-2022年12月
参加領域: イラストレーション/情報デザイン | 参加人数: 7名

滋賀県国民健康保険団体連合会からの依頼を受け、本学の学生を対象としたコンペを開催し、「国民健康保険 健康増進強調月間」の啓発ポスターを制作しました。応募されたポスターデザインの中から滋賀県国民健康保険団体連合会の審査を経て、情報デザイン領域1年生の松本涼花さんのデザインが採用されました。ポスターは健康増進強調月間(9月1日-11月30日)に合わせて、県内各市町および関係機関やJA系統金融機関、温泉等優待割引事業参加施設等に掲示されました。

彦根マリアアートプロジェクト



ワークショップの様子

担当: 宇野君平 准教授/田口真太郎 助教
連携先: 彦根市歴史まちづくり部文化財課 | 期間: 2022年6月-2023年3月
参加領域: 美術/情報デザイン/地域実践 | 参加人数: 6名

彦根城旧外濠を埋め立てたマリア対策(1949-1955年)に着目した現代アート作品《濠と瘡》を使用して、市民、学生、専門家などと一緒に対話型鑑賞ワークショップを実施するプロジェクトです。アートを通じて社会的価値観に問いかけ、彦根市の未来に向けた新しい価値の創造を目指し活動しました。(環びわ湖大学・地域コンソーシアム「大学地域連携課題解決支援事業 2022」採択事業)

京都信用金庫 2023年卓上カレンダー原画制作



完成した卓上カレンダー

担当: 高田 学 准教授/地域連携推進センター | 連携先: 京都信用金庫
期間: 2022年6月-2023年3月 | 参加領域: 美術
参加人数: 13名

京都信用金庫は産学連携の一環として、毎年営業エリア内の芸術系大学にカレンダーの制作を依頼されており、2023年は本学が制作を担当しました。美術領域の高田 学先生の監修のもと、日本画コースの3年生が中心となって、表紙を含めた13枚の原画を制作しました。今回は「四季の水景」をテーマに、河川や湖などの水辺の風景を周辺の歴史的建造物や四季の自然とともに表現しました。制作した卓上カレンダーは、京都信用金庫の顧客へと贈られました。

未来社会デザイン共創機構では、官公庁、一般企業、各種団体から研究費（事業費）を受け入れ、研究・開発を行っています。地域と連携して、本学の基本理念「芸術による社会への貢献」の実現に取り組む活動の一部をご紹介します。

子ども向け資源リサイクルワークショップ



ワークショップの様子

担当: fabco (ファブリケーションcommons) / 地域連携推進センター
連絡先: 滋賀県産業資源循環協会 | 期間: 2022年5月-2023年1月
参加領域: 空間デザイン | 参加人数: 2名

滋賀県産業資源循環協会からの依頼を受け、食べ終わったお菓子の袋を使用して自由にキーホルダーを作る《レジンでつくるおかしな(お菓子な?) キーホルダー》と題したワークショップを開催しました。空間デザイン領域4年生の桐畑千晴さん、中本暁音さんと、本学のものづくり施設であるfabco (ファブリケーションcommons) のスタッフが協力し、企画・実施しました。普段はゴミとして捨てていたものを別のものに作り変えるという体験を通して、いつもと違う視点でものづくりを楽しんでいただきました。

日吉大社 絵馬制作

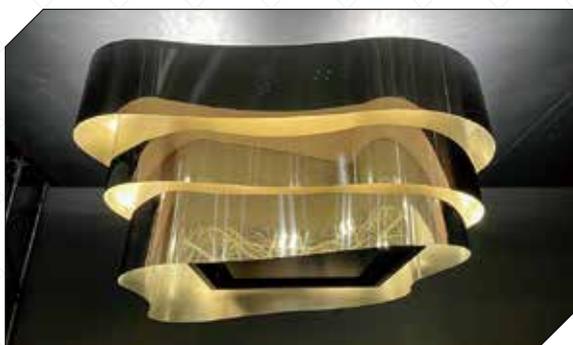


大絵馬おひろめの様子

担当: 高田 学 准教授 / 地域連携推進センター | 連携先: 日吉大社
期間: 2022年7月-2022年12月 | 参加領域: 美術
参加人数: 1名

2016年度から本学の美術領域日本画コースの学生が、日吉大社の干支大絵馬の原画制作を担当しています。7年目となる2022年度は、高田 学先生の監修のもと、美術領域3年生の南原稚奈さんが「卯(うさぎ)」をテーマにした原画を制作しました。スケッチ練習を重ねて描かれた2羽のうさぎには、「コロナ禍が続く世の中で、2023年はうさぎのように大きく飛躍してほしい」という願いが込められています。この大絵馬は新年にあわせて日吉大社の境内入り口に飾られ、多くの参拝客に楽しんでいただきました。

レンジフード新商品デザインプロジェクト



レンジフードデザインコンテスト最優秀作品

担当: 三宅正浩 准教授 | 連携先: 株式会社HEJ
期間: 2022年10月-2023年2月 | 参加領域: 空間デザイン
参加人数: 15名

我々がよく知るキッチンには、一般的にレンジフード(換気扇)が設置されています。世の中にはさまざまなキッチンがデザインされていますが、レンジフードのデザインはよく似たものが多いと感じられます。そこでレンジフードメーカーのHEJからの依頼により、これまでにない唯一無二のレンジフードデザインを求めるコンテストを開催しました。優秀作品はカタログに掲載され、最優秀賞作品は実際に製品として製造されました。製品化された作品は、東京ビッグサイトで開催された「リフォーム産業フェア」にて発表され多くの来場者に観覧されました。

地域実践・プロジェクト科目／授業紹介

近江里山フィールドワーク



上仰木地区で田植えをする学生の様子

担当:今森光彦 客員教授/加藤賢治 教授/
大原 歩 非常勤講師/佐藤悦子 特別講師
連携先:仰木自然文化庭園構想 八王寺組
参加人数:30名

里山環境の整備や田植え、稲刈り、脱穀作業など、棚田保全活動を通して、里山における人と自然の関わりについて学びます。フィールドワークを通して、里山での暮らしを深く理解し、未来における自然との関わりについて考察します。最終回には、客員教授である写真家の今森光彦先生が運営する仰木の農園を訪問します。

大津祭曳山連盟公式キャラクター「ちま吉」プロジェクト



ビワコイ祭り2022の様子

担当:田中真一郎 教授/加藤賢治 教授
連携先:大津祭ちま吉協議会
参加人数:15名

大津祭曳山連盟の公式キャラクター「ちま吉」を中心に、子どもたちや地域住民向けの活動を展開します。毎年「大津祭を知ってもらおう・来てもらおう・好きになってもらう」をテーマに、イベント企画やオリジナルグッズの開発など、多岐にわたる活動を実施しています。

大津市科学館 プラネタリウムアニメーション制作



プラネタリウムアニメーション完成作品

担当:高橋登美子 准教授/植村泰之 非常勤講師
連携先:大津市科学館
参加人数:13名

大津市科学館のプラネタリウムで上映する星座の物語をテーマにしたアニメーションを制作します。学生は絵コンテの作成から作画、背景美術の制作、撮影・編集、アフレコ収録といった一連のアニメーション制作の流れを学びます。完成作品は、大津市科学館のプラネタリウムで上映されます。

ソーシャルデザインプロジェクト



ビワイチの日ポスターデザインチーム

担当:大草真弓 教授/石川 亮 准教授
連携先:滋賀県商工観光労働部観光振興局
ビワイチ推進室/滋賀県危機管理センター
参加人数:16名

社会課題を身近なものとしてとらえ、デザイン力で解決する方法を探求します。2022年度は、滋賀県観光振興局のビワイチ推進室との連携でビワイチのポスターやパンフレットを制作し、滋賀県危機管理センターとの連携で身近な防災について考えてワークショップやカードゲームを提案しました。

大津市歴史博物館 おもちゃのワークショップ



大津市歴史博物館でのワークショップの様子

担当:宇野君平 准教授
連携先:大津市歴史博物館
参加人数:21名

大津市歴史博物館と連携して、大津市内の小学生を対象におもちゃづくりのワークショップを開催します。郷土の歴史や文化を学び、ものづくりの魅力を体験し、子どもたちの創造力を育むことを目指します。この活動を通して、学生たちは社会教育の現場を実践的に学びます。

谷本勇写真作品 デジタルデータ化プロジェクト



デジタル化するフィルム

担当:金澤 徹 教授 | 連携先:大津市歴史博物館
参加人数:18名

大津市歴史博物館に収蔵されている谷本勇氏の写真作品をデジタル化し、データベースの基礎づくりに取り組みます。写真をスキャンしてデータベースを構築していくことで、貴重な文化遺産をデジタルで保管・活用し、将来の研究や展示のための基盤を築いています。なお、谷本作品の35mmモノクロームフィルムのデジタルデータ化は、2022年度にすべて完了させました。

未来社会デザイン共創機構では、プロジェクト科目等の実践型授業の運営サポートを行っています。
官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼を授業課題として取り入れ、成果をあげる取り組みの一部をご紹介します。

地域とアート (堅田アートプロジェクト)



光徳寺境内での学生作品展示の様子

担当:馬場晋作 准教授/石川 亮 准教授
連携先:堅田浜通り商店街/
堅田学区自治連合会 永楽自治会/滋賀県文化
スポーツ部文化芸術振興課美の魅力発信推進室
参加人数:14名

「堅田*はまさんぼ」というアートプロジェクトを中心に、堅田浜通り商店街を舞台に企画・運営を行います。地域調査や学生と地域住民との交流企画の立案・運営を経験することによって、地域との継続的な関係性やアートをを用いた協働の意義について実践的に学びます。

びわ湖ホール オリジナル上演プロジェクト



2022年度成果発表公演の様子

担当:田中秀彦 准教授/大野知英 非常勤講師
連携先:公益財団法人びわ湖芸術文化財団
参加人数:47名

滋賀県立びわ湖ホールで上演されるオリジナルミュージカルの制作を体験します。劇場や舞台裏の見学、そしてプロの舞台美術のスタッフからの講習を通じて、実際の舞台制作の現場を学びます。学生は衣装制作、舞台美術、小道具などの各部門に分かれ、実際の制作活動に携わります。

びワイチプラスとコミュニティ



サイクリング体験の様子

担当:加藤賢治 教授/石川 亮 准教授
連携先:オーバルオプテックス株式会社/
滋賀県商工観光労働部観光振興局びワイチ推進室
参加人数:23名

地域企業や行政と連携し、自転車で琵琶湖を一周する「びワイチ」を題材に、コロナ禍社会の新たな地域振興のあり方を探求します。学生たちは実際にサイクリングを体験し、そこで得られた気づきをもとに、必要なサービスやコンテンツのアイデアを創出し提案します。

リデザインプロジェクト



《あつまれ!カクッとファミリー》中部SDGs推進センター賞受賞

担当:田辺由子 教授
連携先:株式会社Comodo LABO
参加人数:32名

繊維メーカーや商社から提供された未使用の素材を活用して、障害者支援施設での製造を前提にした雑貨のデザインとサンプル制作に取り組みます。学生たちが制作した作品はリデザインプロジェクトコンテストに出品され、入賞作品の中から商品化されるものが選ばれます。

びわ湖大津館 光のアートプロジェクト



2022年度イルミネーション作品

担当:三宅正浩 准教授
連携先:京阪・琵琶湖汽船グループ(琵琶湖汽船株式会社)
参加人数:27名

びわ湖大津館のイングリッシュガーデンに、冬期限定で展示する光のアート作品(イルミネーション)を制作します。作品を多くの方々に楽しんでいただけるよう、リサーチからコンセプトづくり、プレゼンテーション、実際の制作、そして展示設営まで一連のプロセスに取り組みます。

事業分類概要

研究助成事業

特別研究助成事業

本機構の設立に伴い、本学の研究活動をさらに活性化すべくリニューアルした、学内の「競争的研究資金」です。今日的な社会課題に対する斬新なアイデアやチャレンジ性を有する研究、科学研究費助成事業（科研費）の獲得につながる研究などを奨励します。

科学研究費助成事業

日本学術振興会の科学研究費助成事業（科研費）は、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。本機構では、科研費の管理を行い、独創的・先駆的な研究を支援します。

SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）

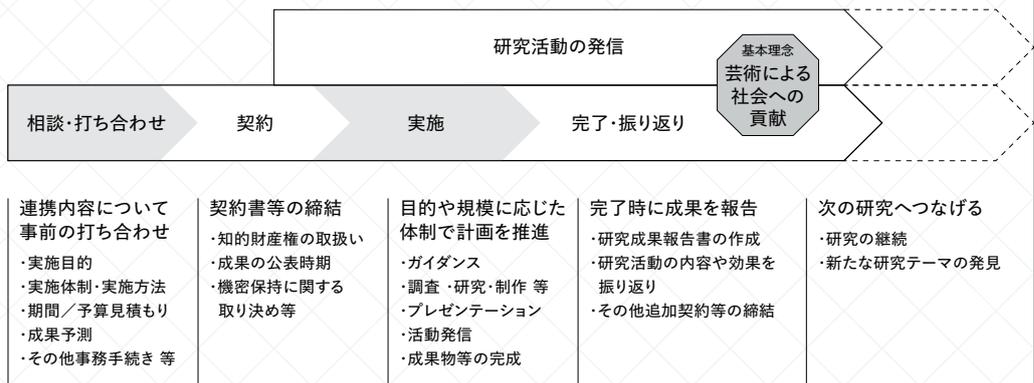
研究活動の活性化を目指し実施する学生特別研究助成金制度です。本学の学生・研究生から枠にとられない独創性豊かな研究・制作テーマを募集し、採択テーマには総額100万円の研究・制作資金の助成支援をはじめ相談や指導、マッチングなどの活動支援を行います。

seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）

本学の基本理念「芸術による社会への貢献」を具現化する学生の自主的・主体的な活動を支援する新たな支援制度「seianチャレンジ」を2022年度に新たに開設しました。1件あたり最大5万円の助成支援、活動へのアドバイスなどのサポートを行います。

共創プロジェクト 受託研究・共同研究・受託事業

官公庁や民間企業、各種団体から研究費（事業費）を受け入れ、研究・開発を行います。滋賀県唯一の芸術大学であるリソースを活かして、地域の課題解決や芸術文化の発展に向けた様々な企画を積極的に提案。地域と連携して、本学の基本理念である「芸術による社会への貢献」の実現に取り組めます。



地域実践・プロジェクト 科目／授業

本学の教育カリキュラムの一環として、官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼や共同研究を授業課題に取り入れ単位認定を行う取り組みです。多くの成果物は実際に商品化されるなど、デザインやアートが実社会にどう関わっていくかを実践的に学ぶ機会となっています。本機構では運営管理・活動支援を行います。

2022年度 事業一覧

*連携先の名称・参加学生の学年は2022年度当時の情報です。

分類	プロジェクト名	担当	期間	主な連携先	参加領域	参加人数	
研究助成事業	特別研究助成事業	八幡山アートプロジェクト 地域資源を活用した現代アートの可能性	宇野君平 准教授	7月-3月	-	-	-
		東近江市『近江匠人』認証制度の新規性・透明性訴求	大草真弓 教授	7月-3月	東近江市観光産業課	-	-
		アフターコロナにおけるまちづくり事業の方向性変化によるまちへの影響	三宅正浩 准教授	2020年9月-2023年3月	-	-	-
	科学研究費助成事業	アートによる地域再生の実践的検証 一瞬がい者アートと地域アートの未来像を探る試み	馬場晋作 准教授 石川 亮 准教授	2020年-2022年	仁愛大学 三脇康生 教授	-	-
		ジェンダーインクルーシブなプログラミング教育教材の開発と普及	真下武久 准教授	2021年-2024年	同志社女子大学 有賀妙子 准教授	-	-
	SEIANドリームプロジェクト (学生特別研究助成金)	森林保全×NFTアートプロジェクト《ハトハ》/ 相川佳奈(情報デザイン領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2023年4月	-	情報デザイン	1
		デザイン、プロダクトで行動変容を起こす/ おおきにトビケラさんプロジェクト 西村清美(総合領域4年生) 高木琉音(総合領域4年生) 中西若菜(総合領域3年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2023年4月	-	総合	3
		不在の中の存在—作為の痕跡/ 北村侑紀佳(美術領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2023年4月	-	美術	1
		私と貴方をつなぐ作品・空間の共有/ ナカスジナミ(空間デザイン領域 田中秀彦研究室 研究生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2023年4月	-	研究生	1
		店舗、企業から排出されるゴミ問題に着目した アップサイクルデザイン/ ムダモルフォーゼプロジェクト運営委員会 代表: 中村夏波(情報デザイン領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2023年4月	-	総合、美術、 情報デザイン、 空間デザイン	16
		山元春拳の想いと継承/ 野一色優美(美術領域 高田学研究室 研究生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2023年4月	-	研究生	1
		不用品(ゴミ)を使った新しい素材の研究/ 三上萌香(総合領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2023年4月	-	総合	1
	seianチャレンジ (学生が取り組む地域活動支援制度)	らくがんさんの落雁/ らくがんさんの落雁制作委員会 YU WANNING(イラストレーション領域2年生) 山本エリ(イラストレーション領域1年生) 武田愛美(イラストレーション領域1年生) 本多優衣(イラストレーション領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-3月	-	イラストレーション	4
		地球温暖化防止を目的としたマイボトルの デザインコンペ/ 大町彩依(総合領域4年生) 高津愛加(情報デザイン領域3年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-3月	-	総合、情報デザイン	2
	自分の地図を広げる探検マップをつくろう/ 平良珠朱(地域実践領域3年生)	未来社会デザイン共創機構	12月-3月	-	地域実践	1	
共創プロジェクト (受託研究・共同研究・ 受託事業)	「しがCO ₂ ネットゼロムーブメント」プロジェクト 2022	大草真弓 教授 石川 亮 准教授 未来社会デザイン共創機構	4月-3月	滋賀県総合企画部CO ₂ ネットゼロ推進課、 公益財団法人 淡海環境保全財団 (滋賀県地球温暖化防止 活動推進センター)	情報デザイン、 地域実践	2	
	ムダモルフォーゼプロジェクト	大野知英 非常勤講師 未来社会デザイン共創機構	4月-3月	エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社、 株式会社阪急阪神百貨店	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	37	
	びわ湖毎日マラソンモニュメント制作	馬場晋作 准教授 地域連携推進センター	4月-3月	一般社団法人 大津市スポーツ協会、 大津市市民スポーツ課	-	-	
	しがアートフェスタinアグリパーク竜王	未来社会デザイン共創機構	4月-10月	滋賀県文化芸術振興課	情報デザイン、 地域実践	7	
	子ども向け資源リサイクルワークショップ	fabco(ファブリケーション commons) 地域連携推進センター	5月-1月	滋賀県産業資源循環協会	空間デザイン	2	
	2022年度 国民健康保険健康増進強調月間 啓発ポスター制作	未来社会デザイン共創機構	5月-12月	滋賀県国民健康保険 団体連合会	イラストレーション、 情報デザイン	7	
	彦根マラリアートプロジェクト	宇野君平 准教授 田口真太郎 助教	6月-3月	彦根市歴史まちづくり 部文化財課	美術、情報デザイン、 地域実践	6	
	京都信用金庫 2023年卓上カレンダー原画制作	高田 学 准教授 地域連携推進センター	6月-3月	京都信用金庫	美術	13	

共創プロジェクト (受託研究・共同研究・ 受託事業)	ネーブル・ジャパン スピーカー制作	石川泰史 教授	7月-3月	株式会社 ネーブル・ジャパン	空間デザイン	3
	日吉大社 絵馬制作	高田 学 准教授 地域連携推進センター	7月-12月	日吉大社	美術	1
	おごと温泉まんじゅうラベルデザイン	未来社会デザイン共創機構	10月-1月	株式会社関広	情報デザイン	3
	レンジフード新商品デザインプロジェクト	三宅正浩 准教授	10月-2月	株式会社HEJ	空間デザイン	15
	阪急本店イベントに伴う撮影	未来社会デザイン共創機構	11月	株式会社 阪急阪神百貨店	総合、美術、 情報デザイン、 空間デザイン	7
	BANDAIGAシャボンイベント	田中秀彦 准教授	1月-3月	株式会社フェニス	総合、空間デザイン	20
	アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業 (外壁アート)	宇野君平 准教授	2月-3月	近江八幡市文化振興課	美術、情報デザイン	6
	クリエイティブであり続ける為に (澤田知子 作家論)	澤田知子 客員教授 南 琢也 教授	4月-9月	-	イラストレーション、 美術、情報デザイン、 地域実践	21
	近江里山フィールドワーク	今森光彦 客員教授 加藤賢治 教授 大原 歩 非常勤講師 佐藤悦子 特別講師	4月-3月	仰木自然文化庭園構想 八王寺組	イラストレーション、 美術、情報デザイン、 地域実践	30
	大津市歴史博物館 おもちゃのワークショップ	宇野君平 准教授	4月-3月	大津市歴史博物館	イラストレーション、 美術、空間デザイン、 地域実践	21
大津祭曳山連盟公式キャラクター「ちま吉」 プロジェクト	田中真一郎 教授 加藤賢治 教授	4月-3月	大津ちま吉協議会	総合、 イラストレーション、 情報デザイン、 地域実践	15	
ソーシャルデザインプロジェクト	大草真弓 教授 石川 亮 准教授	4月-3月	滋賀県商工観光労働部観 光振興局ピワイチ推進室、 滋賀県危機管理センター	イラストレーション、 情報デザイン、 地域実践	16	
谷本勇写真作品デジタルデータ化プロジェクト	金澤 徹 教授	4月-3月	大津市歴史博物館	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン	18	
地域とアート(堅田アートプロジェクト)	馬場晋作 准教授 石川 亮 准教授	4月-3月	堅田浜通り商店街、 堅田学区自治連合会 永楽自治会、 滋賀県文化スポーツ部 文化芸術振興課の魅力 発信推進室	イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	14	
ピワイチプラスとコミュニティ	加藤賢治 教授 石川 亮 准教授	4月-3月	オーバルオブテックス 株式会社、 滋賀県商工観光労働部 観光振興局ピワイチ推進室	総合、 イラストレーション、 情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	23	
びわ湖大津館 光のアートプロジェクト	三宅正浩 准教授	4月-3月	京阪・琵琶湖汽船グループ (琵琶湖汽船株式会社)	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	27	
びわ湖ホール オリジナル上演プロジェクト	田中秀彦 准教授 大野知英 非常勤講師	4月-3月	公益財団法人 びわ湖芸術文化財団	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	47	
リデザインプロジェクト	田辺由子 教授	4月-3月	株式会社 Comodo LABO	イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	32	
授業	大津市科学館 ブラネタリウムアニメーション 制作	高橋登美子 准教授 植村泰之 非常勤講師	4月-9月	大津市科学館	イラストレーション	13
JR湖西線アートプロジェクト	宮永真実 講師 未来社会デザイン共創機構	4月-3月	西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)、 湖西線利便性向上 プロジェクト推進協議会	総合	16	
微生物を題材にしたカードゲーム制作	浪本浩一 非常勤講師 高橋智子 特別講師 未来社会デザイン共創機構	4月-3月	株式会社SCREEN ホールディングス、 滋賀県立琵琶湖博物館	総合、情報デザイン	18	
その他	紙園祭山鉾装飾品等専門委員会 委員	小嵩普通 教授	1995年-	公益財団法人 紙園祭山鉾連合会	-	-
公益財団法人 滋賀県文化財保護協会 監事	小嵩普通 教授	2012年-	公益財団法人 滋賀県文化財保護協会	-	-	
滋賀県 文化財保護審議会 委員	小嵩普通 教授	2012年-	滋賀県文化スポーツ部 文化芸術振興課	-	-	
京都御所障壁画修理 指導	小嵩普通 教授	2014年-	宮内庁京都事務所	-	-	
京都市 元離宮二条城保存整備委員会 委員	小嵩普通 教授	2014年-	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 元離宮二条城事務所	-	-	

その他	大津市 湖都文化実行委員会 文芸誌「湖都の文学」編集委員	石川 亮 准教授	2015年-	大津市市民部文化振興課	-	-
	草津市 景観審議会 委員	西尾幸子 准教授	2015年-	草津市都市計画部 都市計画課景観係	-	-
	(一般社団法人)日本学生相談学会 理事/ 代議員・編集委員	山川裕樹 教授	2016年 5月-	(一般社団法人) 日本学生相談学会	-	-
	京都市 元離宮二条城二之丸御殿 障壁面模写事業 指導	小嵯普通 教授	2016年-	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 元離宮二条城事務所	-	-
	湖南省 景観計画アドバイザー	石川 亮 准教授	2018年-	湖南省都市建設部 都市政策課	-	-
	滋賀県 文化賞等選考懇話会 委員	千速敏男 教授	2018年-	滋賀県文化スポーツ部 文化芸術振興課	-	-
	彦根市 文化財審議会 委員	小嵯普通 教授	2019年-	彦根市観光文化戦略部 文化財課	-	-
	文化庁 文化審議会文化財部会専門調査会 委員	小嵯普通 教授	2019年-	文化庁	-	-
	滋賀県立栗東高等学校 学校運営協議会 委員	金澤 徹 教授	2020年-	滋賀県立栗東高等学校	-	-
	一般社団法人 日本心理臨床学会 編集委員	山川裕樹 教授	2020年 10月-	一般社団法人 日本心理臨床学会	-	-
	大津市 歴史的風致維持向上協議会 委員	加藤賢治 教授	2020年 10月- 2022年9月	大津市都市計画部 都市計画課	-	-
	大津市 湖都文化推進審議会 委員	小嵯普通 教授	2021年-	大津市市民部文化振興課	-	-
	金沢城二の丸御殿 復元整備専門委員会 委員	小嵯普通 教授	2021年-	石川県土木部公園緑地課	-	-
	京都市京セラ美術館 美術学芸アドバイザー	中谷至宏 教授	2021年-	京都市京セラ美術館	-	-
	京都市 元離宮二条城事務所 美術学芸アドバイザー	中谷至宏 教授	2021年-	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 元離宮二条城事務所	-	-
	公益財団法人 大津市国際親善協会 評議員	小嵯普通 教授	2021年-	公益財団法人 大津市国際親善協会	-	-
	公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 理事	小嵯普通 教授	2021年-	公益財団法人 びわ湖芸術文化財団	-	-
	国宝延暦寺根本中堂ほか1棟保存修理事業 専門委員会 委員	小嵯普通 教授	2021年-	比叡山延暦寺	-	-
	第79回 国民スポーツ大会・第24回全国障害者 スポーツ大会 大津市準備委員会 参与	小嵯普通 教授	2021年-	草津市教育委員会事務局 国スポ・障スポ推進室	-	-
	大津市 中学校部活動地域移行検討懇話会 委員	藤井俊治 助教	4月-	大津市教育委員会学校教育 課	-	-
	滋賀県 観光事業審議会 委員	石川 亮 准教授	4月-	滋賀県商工観光労働部 観光振興局	-	-
	滋賀県立北大津高等学校/ 滋賀県立北大津高等養護学校 学校評議員	石川 亮 准教授	4月-	滋賀県立北大津高等学校・ 高等養護学校	-	-
	滋賀県立美術館協議会 会長	千速敏男 教授	4月-8月	滋賀県立美術館	-	-
	株式会社しがぎん経済文化センター KEIBUN文化講座 講師	千速敏男 教授	4月-12月	株式会社しがぎん 経済文化センター	-	-
	第2回 茨木映像芸術祭 審査員	水野勝規 助教	4月-3月	茨木市市民文化部 文化振興課	-	-
	日野町 人材育成アドバイザー	田口真太郎 助教	4月-3月	滋賀県日野町	-	-
	高島市 景観審議会 委員	三宅正浩 准教授	4月-3月	高島市都市整備部 都市政策課	-	-
	高島市 文化財保護審議会 委員	加藤賢治 教授	4月-3月	高島市教育委員会事務局 文化財課	-	-
	大津市 景観審議会 委員/景観アドバイザー	田口真太郎 助教	4月- 2024年3月	大津市都市計画部 都市計画課	-	-
	2022年度 美の系口アートにどどん! 実行委員会 委員	石川 亮 准教授	5月-	滋賀県文化スポーツ部 文化芸術振興課	-	-
	大阪府立工芸高校 デッサンコンクール 審査員	永江弘之 教授	6月	大阪府立工芸高校	-	-
	草津市 史跡草津宿本陣整備懇話会 委員	小嵯普通 教授	6月-	草津市教育委員会	-	-
	マザーレイクゴールズ学術フォーラム 学術委員	加藤賢治 教授	6月-	滋賀県琵琶湖環境部琵琶 湖保全再生課	-	-
	滋賀県 商工観光労働部試験研究機関研究 外部評価会議 委員	石川泰史 教授	8月-3月	滋賀県商工観光労働部	-	-
大津市歴史博物館協議会 副会長	宇野君平 准教授	9月- 2024年8月	大津市歴史博物館	-	-	
滋賀県立美術館協議会 委員	馬場晋作 准教授	9月- 2024年8月	滋賀県立美術館	-	-	



おわりに

本学は「芸術による社会への貢献」を基本理念(教育理念)としています。このことを標榜する文面の冒頭には「私たち成安造形大学は、芸術分野における真摯な教育と研究を通して広く社会に貢献する。独自の実践的学士課程教育によって、発想力・提案力・技術力に優れた清廉な人材を輩出する。そして、誇るべき永い伝統を全員が胸に抱き、新しき名門を目指す。」と書かれています。

この研究・連携活動事例集を眺めると、本機構が所管するプロジェクトは研究助成事業や共創プロジェクトなど多岐にわたり、滋賀県を中心に、官公庁や民間企業、各種団体、個人等の活動と、本学学生、教員の教育・研究を結ぶ役割の重要性を確認することができます。

その中でも、基本理念のもと長年にわたって開講してきた地域実践・プロジェクト科目の存在は、大変重要であると認識しています。毎年約10種類の授業が開講され、延べ250名(全学生の約3割)を超える学生が受講しています。

学生たちは、学外の団体と共創し、地域の課題を考え、発見して提案するという実践的な授業を通して、プロジェクトの背景理解、特に現代社会の諸相やコミュニティに関することを学びます。そして学内外の関係者と協働し、課題解決のための可能性を模索し、実践します。その上で、今後のプロジェクトの発展・展開を念頭に、未来に向けての提言・提案の発端を導き出し、自分自身の社会とのつながりを改めて自覚します。この活動を通して、成功と失敗を経験し、実践力、創造力、課題解決力、協働力、主体的行動力をつけていくのです。

本学学生に向けて

感染症の流行、多発する自然災害、経済活動の停滞や不安定な国際情勢など、不透明な未来社会をどのように生き抜くかが今問われています。未来の予測やグローバルな社会情勢を知ることも大切なことですが、今一度、自分の足元を見つめ直すことも大切です。未来社会は、地域(地方)の時代とも言われています。自分が地域でどのようにより良く暮らすのか。学内の学びだけでなく、共創プロジェクトやその他の取り組みに積極的に参加して、アートやデザインなど専門領域で培った学びを学生の間で学外で実践してみてください。その経験は必ず自身の将来に活かされるはずです。

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 副機構長
加藤賢治

Co-Creation+

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構
2022年度 研究・連携活動事例集

編集・発行:

学校法人京都成安学園
成安造形大学 未来社会デザイン共創機構

〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1
tel: 077-574-2111(代表) | 077-574-2118(直)
fax: 077-574-2120
mail: mirai@seian.ac.jp

成安造形大学ウェブサイト:
<https://www.seian.ac.jp>



未来社会デザイン共創機構Facebook:
<https://www.facebook.com/seianmirai>



未来社会デザイン共創機構X(旧Twitter):
https://twitter.com/seian_mirai



成安造形大学 紀要:
<https://www.seian.ac.jp/attached/kiyo/>



発行日:2024年4月1日

アートディレクション／デザイン:塩谷啓悟

ISSN 2758-5697

